

プログラミング教育教材貸出し実施要項（令和7年度～）

宮城県総合教育センター

1 実施目的

本県の小・中学校に対し、プログラミング教育教材「micro:bit」の支援を行い、プログラミング教育を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力の育成を図る。

2 概要

これまで、総合教育センター（以下「センター」という。）は、各教育事務所に「micro:bit」を配置し、各教育事務所管内の学校が授業等で実践できるような環境を整えていた。しかし、「micro:bit」の借用は年々減少していることから、今後の配置については以下のように行う。

- ① センターに「micro:bit」を配置し、大河原、仙台、北部、東部教育事務所管内の学校に教材を貸し出す。
- ② 気仙沼教育事務所については、引き続き「micro:bit」を配置し、管内の学校に配置された「micro:bit」を貸し出す。（これまでの活用状況と地理的な要因を踏まえ、配置するもの。）

3 貸出しの手順について

（1）申請方法

申請者が以下の内容を手順に従い、各担当者に電話で伝える。

【学校名（委員会名） 担当者名 貸出希望日 返却予定日 貸出・返却方法】を伝える。

- ① 大河原、仙台、北部、東部教育事務所管内の学校または教育委員会が申請する場合

学校 → 教育委員会 → センター

- ② 気仙沼教育事務所管内の学校または教育委員会が申請する場合

学校 → 教育委員会 → 気仙沼教育事務所

（2）貸出期間

1ヶ月を目安とするが、申請時の調整により延長も可とする。

（3）貸出方法

センター または 気仙沼教育事務所 → 教育委員会 → 学校

- ・センターまたは気仙沼教育事務所の担当者が市町村教育委員会の担当者に貸し出し、市町村教育委員会の担当者が学校へ貸し出す。

※協議の上、学校担当者が、センターまたは気仙沼教育事務所から直接受け取ることも可とする。

- ・「micro:bit」は、市町村教育委員会または学校の担当者がセンターまたは気仙沼教育事務所から直接受け取る。（受取方法に関しては、協議の上、変更可。ただし、経費がかかる場合は、借りる側が負担すること。）

(4) 「micro:bit 貸出簿」について

センターまたは気仙沼教育事務所の貸出担当者は、貸し出しする際に「【様式2】micro:bit 貸出簿」を記入し、教材の貸出状況を管理する。

(5) 返却について

返却は、貸出時の手順と反対の順序で行う。

(6) 実践報告書の提出について

活用した学校または教育委員会は「【様式1】実践報告書」を作成し、センター情報教育班に電子メールにて報告する。

宮城県総合教育センター 情報教育班

電話：022-784-3560（直通）メール：infotech-e@edu-c.pref.miyagi.jp

4 各種様式について

センターのホームページから、「各種様式ダウンロード」をクリックし、「プログラミング教材『micro:bit』の貸出について」からダウンロードできます。

URL：<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/yousiki.html>

【様式1】micro:bit 実践報告書（Word データ）

【様式2】micro:bit 貸出簿（PDF データ）

5 その他

教材を活用した学校または教育委員会が教材を破損及び紛失等した場合は、センターまたは気仙沼教育事務所に連絡すること。

6 担当・連絡先

宮城県総合教育センター 情報教育班

電話：022-784-3560（直通）メール：infotech-e@edu-c.pref.miyagi.jp

(様式1)

micro:bit 実践報告書

1 報告者

学校・委員会名		実践者職氏名	
---------	--	--------	--

2 概要

実施日	令和 年 月 日
使用目的	授業 ・ 研修会
教科名または研修会名	

3 実践内容

(1) 実践のねらい

--

(2) 実践の概要

--

4 実践を通して

(1) 実践のねらいの達成状況

--

(2) 準備等で気が付いたこと/失敗したこと/改善点等

--

宮城県総合教育センター 情報教育班
電話:022-784-3560(直通)
mail:infotech-e@edu-c.pref.miyagi.jp

micro:bit 実践報告書(記入例)

1 報告者

学校・委員会名	〇〇立〇〇〇学校	実践者職氏名	教諭 〇〇 〇〇
---------	----------	--------	----------

2 概要

実施日	令和 〇年 〇〇月 〇〇日
使用目的	授業 ・ 研修会
教科名または研修会名	技術・家庭科

3 実践内容

(1) 実践のねらい

計測・制御のシステム、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決の手順を知る。

(2) 実践の概要

- ・温度センサーを用いた熱中症警戒アラームのプログラミング
- ・Bluetooth を用いた近接ビーコンによるデジタルかくれんぼ
- ・Bluetooth を用いた対戦型シューティングゲームのプログラミング

4 実践を通して

(1) 実践のねらいの達成状況

- ・様々なセンサーがあることから、活用方法について色々なアイディアが出された。
- ・同じ動作のプログラムでも、より簡潔な記述にしようと思える姿が見られた。

(2) 準備等で気が付いたこと/失敗したこと/改善点等

micro:bit のリセット方法やICT機器と接続がうまくできない生徒が多く見られた。そこでリセットや接続時に発生しやすいトラブルのパターンを整理し、生徒へ周知したい。

